

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第345回

## 『アテナ・オーチャード』

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年2月27日

編集委員：入試広報室 鈴木



### 今回の言葉

Maybe it's not about the happy ending, maybe it's about the story.

人生がハッピーエンドに終わるかどうよりも、

ちゃんと内容のある人生だったかが大事なの。

アテナ・オーチャードは、イギリスの人物。骨肉腫（骨に発生するガン）により13歳という若さで亡くなった。数日後に家族が持ち物を片付ける時に、彼女が使っていた姿見の裏に3,000語に及ぶメッセージが隠されており、オーチャード一家の心の拠り所となったというエピソードは日本のテレビ番組でも紹介されている。

## Column

生前の彼女は下のこの面倒をよく見るいい子で学校でも人気があり、ボクシングに夢中だったそうです。彼女の体に異変が起きたのは、そのボクシングの練習中に違和感を感じ、後頭部にしこりがあることが発覚。しこりはやがて大きくなって痛みを伴うようになり病院で診てもらおうと、脂肪の塊で身体に吸収され、いずれなくなるとの診断で一安心したものの、数カ月後に自宅で意識を失って倒れて病院に緊急搬送されます。しこりは脂肪の塊ではなく骨のガンである『骨肉腫』であることが判明。すでに背中や肺に転移していて手の施しようがない状態だったそうです。翌日、7時間半にも及ぶ壮絶な手術を受けましたが、ほんの僅かな延命措置に過ぎない結果となり非常に余命1ヶ月という宣告を受けることになってしまいます。抗癌剤治療をやめて家族との時間を大切に過ごすために自宅に戻ることにした彼女はそれからおよそ5ヶ月後に亡くなりました。彼女の葬式後、父は彼女の荷物整理のために入った彼女の部屋で鏡の裏に書かれていたメッセージを見つけました。そこには普段は明るく振舞っていた彼女の死への恐怖が3,000語にわたって綴られていました。今回紹介した言葉はその中のひとつです。両親は彼女には余命宣告の事実を伏せていましたが、自分の死が残りわずかであるということを知っていたのでしょう。みなさんは高校生ですから1年生で誕生日がまだだとしても15歳です。そんな今より2年早く自分の生涯が終わっていたら…。今回は我々が想像さえできないほど短い生涯となった彼女の魂の言葉です。目前に迫る人生の終わりを前にして大人であってもこんなことが言えるだろうか、それを13歳というまだ若い世代の人が…と心の底から生きることを望み、それが叶わない中で僅かな時間をどう生きるのかに集中した彼女の大きなパワーを感じます。当たり前なんて存在しません。彼女の生涯に触れて自分の人生の意味を今一度考えてみる良い機会にしてほしいと願っています。